

『ひと』特集一覧

※印は品切れ －印は僅少

特集名	月号	通巻	税抜定価
子どものための教育宣言	1973年2月号	1	280
「評価と評定」について	1973年3月号	2	280
新しい私塾づくり運動	1973年4月号	3	280
学校に何を期待するか	－ 1973年5月号	4	280
父母は何ができるか<PTA>	※ 1973年6月号	5	280
通知票・指導要録・内申書	1973年7月号	6	280
こんな夏休みがすごせたら	1973年8月号	7	280
子どもは人質か	1973年9月号	8	280
市販テストの問題点	1973年10月号	9	280
教育をとらえなおす本	1973年11月号	10	280
母親として、教師として	1973年12月号	11	280
授業で勝負する	1974年1月号	12	280
英語教育をめぐって	1974年2月号	13	340
子どものための学校づくり	1974年3月号	14	340
これからの教育をどうするか	1974年4月号	15	340
遊びをみなおす	1974年5月号	16	340
授業のなかでの評価	1974年6月号	17	340
学校の規則をみなおす	1974年7月号	18	340
教育にとって教科書とは	1974年8月号	19	340
子どもをとらえなおす本	1974年9月号	20	340
遊びながらの算数	1974年10月号	21	340
入学試験を考える	1974年11月号	22	340
授業記録のすすめ	1974年12月号	23	340
教員養成をどうするか	1975年1月号	24	340
道徳教育って、なんだろう	1975年2月号	25	340
学用品をめぐって	1975年3月号	26	340
子どもからみた学校	1975年4月号	27	340
幼児教育を考える	1975年5月号	28	340
ものをつくることと教育	1975年6月号	29	340
高校生は抗議する	1975年7月号	30	340
「落ちこぼれ」とは、なにか	1975年8月号	31	340
戦争を教える	1975年9月号	32	340
有名受験高校とは	1975年10月号	33	340
読み・書きの教育をみなおす	1975年11月号	34	340
戦争を忘れないために	1975年12月号	35	340
学校給食を子ども本位に	1976年1月号	36	340
教育の原型を求めて	1976年2月号	37	340
たのしい国語教育	1976年3月号	38	340
評価をどうする	1976年4月号	39	340
たのしい科学教育	1976年5月号	40	340
学歴社会と教育のゆくえ	臨時増刊号	41	450

特集名	月号	通巻	税抜定価
教師が忙しさを超えるとき	1976年6月号	42	340
市民運動としての教育運動	1976年7月号	43	340
よみがえれ、算数・数学教育	1976年8月号	44	340
非行って、なんだ	1976年9月号	45	340
テストはなんのため？	1976年10月号	46	340
教育をむしばむ入学試験	1976年11月号	47	340
なんとかならないか、英語教育	1976年12月号	48	340
私にとって教科書とは	1977年1月号	49	340
家庭科って、なんだ	1977年2月号	50	340
やりがいのある行事づくり	1977年3月号	51	340
日本をダメにする序列主義	1977年4月号	52	340
自分たちの手で、幼児教育を	1977年5月号	53	340
生まれかわる国語教育	1977年6月号	54	340
みんなが楽しくできる体育	1977年7月号	55	340
続・生まれかわる国語教育	1977年8月号	56	340
家庭の教育	1977年9月号	57	340
内申書をなくそう	1977年10月号	58	340
親の生き方、子の育ち方	1977年11月号	59	340
ものをつくる授業	1977年12月号	60	340
自立のために学ぶ	1978年1月号	61	340
高校教育の変革をめざして	1978年2月号	62	340
家庭崩壊・登校拒否・自殺	1978年3月号	63	340
学級通信をつくるとは	1978年4月号	64	340
授業に賭ける	1978年5月号	65	340
なぜ、科学を学び、教えるのか	1978年6月号	66	340
若ものは、いま	1978年7月号	67	340
音楽・人間・教育	1978年8月号	68	340
共通一次試験に反対する	1978年9月号	69	340
読むことを好きにするには	1978年10月号	70	340
ほんとうの“ゆとりある”教育とは	－ 1978年11月号	71	340
親の定年、子の定年	－ 1978年12月号	72	340
子どものからだがダメになる	1979年1月号	73	380
“落ちこぼれ”のすすめ	1979年2月号	74	380
市民の手で新しい学びの場を	1979年3月号	75	380
原点としての障害児教育	1979年4月号	76	380
中学生をむしばむものはなにか	1979年5月号	77	380
見るマンガ、かくマンガ	1979年6月号	78	380
エリートって、なんだ	1979年7月号	79	380
学校のなかの暴力	1979年8月号	80	380
なぜ、いま、戦争を問うのか	1979年9月号	81	380
公害、この見のがせない現実	1979年10月号	82	380
子どもを生かす評価を求めて	1979年11月号	83	380
PTA、ほんとうはおもしろい	1979年12月号	84	380
いま、国語教育を問うとは	1980年1月号	85	380
障害児教育からの問いかけ	1980年2月号	86	380
遠山啓——その人と仕事	※ 追悼特別号	追悼 ###	
市民運動としての「ひと塾」	1980年3月号	87	380

特集名	月号	通巻	税抜定価
何が子どもの心を蝕むのか	1980年4月号	88	380
いまを生きる若者から	1980年5月号	89	380
点数を超える教育	1980年6月号	90	380
手づくりの算数・数学教育	1980年7月号	91	380
“おもしろい子”に育てよう	1980年8月号	92	380
子どもを殺す評価、生かす評価	1980年9月号	93	380
登校拒否	1980年10月号	94	380
授業をつくる	1980年11月号	95	380
いま、戦争を教えることの意味	1980年12月号	96	380
こうしたい、英語教育	1981年1月号	97	380
子ども・からだ・食べもの	1981年2月号	98	380
1年たった“ゆとりと充実”	1981年3月号	99	380
授業、いま、子どもの心をひらく	1981年4月100号記念号	100	640
いま、中学校でなにが起こっているか	1981年5月号	101	380
障害児教育こそ、教育の原点	1981年6月号	102	380
ことばは生きているか	1981年7月号	103	450
学校ファシズムがやってくる	1981年8月号	104	450
ふたたび戦争を教えることの意味を問う	1981年9月号	105	450
授業—子どもに学んでつくる	1981年10月号	106	450
能力差別を超えるには	1981年11月号	107	450
子どものエネルギーを引きだす	1981年12月号	108	450
競争原理を問いつづける	1982年1月号	109	450
若者に〈未来〉はあるか	1982年2月号	110	450
表現することは生きること	1982年3月号	111	450
授業をつくる急所	1982年4月新学期増大号	112	640
騒然たる教育論議を	1982年5月号	113	450
中学校—受験・管理・非行との格闘	1982年6月号	114	450
社会科の授業—見えないものを見る力を育てる	1982年7月号	115	450
家庭よ、どこへ行く	1982年8月号	116	450
子どもの人権と学校の管理	1982年9月号	117	450
女先生って、いいな	1982年10月号	118	450
国語の授業・ことばで遊ぶ	1982年11月号	119	450
ほんとうの学力と受験学力	1982年12月号	120	450
ことばとファンタジー	1983年1月号	121	450
性と生・親と教師への提言	－ 1983年2月号	122	450
子どもから出発する幼児教育	1983年3月号	123	450
先生に訴える	1983年4月号	124	450
授業を楽しくする法	1983年5月新学期増大号	125	640
ふたたび性と生	1983年6月号	126	450
私教育のすすめ	1983年7月号	127	450
表現——からだと心をひらく仕事	1983年8月号	128	450
学校を超えて生きる	1983年9月号	129	450
生きかえれ！ 学校行事	1983年10月号	130	450
「いのち」の危機と教育	1983年11月号	131	450
子どもたちがワクワクする教室	1983年12月号	132	450
中学校—なぜこの現実から脱出できないのか	1984年1月号	133	450
ここに立てば管理教育が超えられる	1984年2月号	134	450

特集名	月号	通巻	税抜定価
新しい人の結びつき、よい学びの場	1984年3月号	135	450
弱いもののいじめ	1984年4月号	136	450
子どもが学びたがる授業とは	1984年5月号	137	640
若い先生の悩みが明日の教育を創る	1984年6月号	138	450
「生活点検」ってなんだ	1984年7月号	139	450
明日の授業を創るために	1984年8月号	140	450
グッバイ、管理主義	1984年9月号	141	450
食べものことからだの授業	1984年10月号	142	450
新しい学校のイメージ	1984年11月号	143	450
よみがえれ、ことばの想像力	1984年12月号	144	450
沖縄の教育、いま ‘84年「ひと」塾	1985年1月号	145	450
授業・生きることの発見	1985年2月号	146	450
普通学級のなかの障害児	1985年3月号	147	450
登校拒否—子どもが学校を棄てはじめた！	1985年4月号	148	450
知とは何か、授業とは何か	1985年5月新学期増大号	149	640
やめてほしい、生活点検	1985年6月号	150	450
手づくり教具が教育を変える	1985年7月号	151	450
受験—選ぶ・選ばれるとは	1985年8月号	152	450
ひとが学び、育つとき	1985年9月号	153	450
親と教師にとって教科書・指導書とは	1985年10月号	154	450
いじめをどう解決するか	1985年11月号	155	450
いまの子は“新人種”か	1985年12月号	156	450
私塾が学校を超えはじめた！	1986年1月号	157	450
班づくりは子どもをダメにしたか	1986年2月号	158	450
生き方を手さぐりする若者たち	1986年3月号	159	450
いじめ・体罰を許さない	1986年4月号	160	450
これが私たちの教育改革だ	1986年5月新学期増大号	161	680
これが私たちの考える学力だ	1986年6月号	162	450
授業はこうして生まれる	1986年7月号	163	450
親の価値観、子の価値観	1986年8月号	164	450
教育の技術とはなにか	1986年9月号	165	450
自分のからだと対話する	1986年10月号	166	450
子育て・教育をめぐる人垣づくり	1986年11月号	167	450
十代—自立のドラマ	1986年12月号	168	450
ことばあそび+からだあそび	1987年1月号	169	550
子どもに居場所を！ —登校拒否	※ 1987年2月号	170	550
子どもの好奇心を引きだす	1987年3月号	171	550
少数者（マイナー）の生き方に学ぶ	1987年4月号	172	550
らくらくベーシック算数・数学	1987年5月新学期特大号	173	780
授業の技術	1987年6月号	174	550
弱者の立場からのメッセージ	1987年7月号	175	550
少女期、その変身	1987年8月号	176	550
文章を読み、イメージ化する	1987年9月号	177	550
ストップ・ザ・体罰	1987年10月号	178	550
新提案、これで漢字はバッチリ	1987年11月号	179	550
親の教育責任は18歳まで	臨時増刊号	臨時	850
「死」をどう教えるか	1987年12月号	180	550



特集名	月号	通巻	税抜定価
大道芸を教室へ	1988年1月号	181	550
子どもたちの学級共和国づくり	1988年2月号	182	550
子どもの絵に感動をとりもどす	1988年3月号	183	550
わたしの「殴らず」宣言	1988年4月号	184	550
音楽教育・歌をとりもどす	1988年5月号	185	550
いまどきの家族	1988年6月特大号	186	780
日の丸・君が代	1988年7月号	187	550
歴史離れの時代に 歴史教育の方法	1988年8月号	188	550
歴史の授業をつくる 歴史ばなれの時代に	1988年9月号	189	550
一目でわかる、教具づくり	1988年10月号	190	550
教育産業と子育て	1988年11月号	191	550
「教育技術の法則化運動」症候群	1988年12月号	192	550
家庭科への新提案 現代の食べものといのち	1989年1月号	193	550
日の丸・君が代をどう教えるか	1989年2月臨時特大号	194	950
登校拒否の新しい局面	1989年3月号	195	550
「法則化運動」をさらに検証する	1989年4月号	196	550
登校拒否とのとり組みに学ぶ	1989年5月号	197	550
授業——教師中心か、子ども中心か	1989年6月号	198	550
学校が変わる——汚染された高石指導要領	1989年7月号	199	550
高石指導要領を超える 「日の丸」「神話」「道徳」をどう教えるか	1989年8月特大号	200	950
国際化って、なに？ —授業でアジアとどう出会うか	1989年9月号	201	550
「殺しの文化」から「いのちの文化」へ—自然観を変える	1989年10月号	202	550
海外帰国生の授業への提案—“学び”を見つける	1989年11月号	203	550
先生が変わる—忠誠のシステム	1989年12月号	204	550
子どもの世界が見える本 ブックガイド100冊	※ 別冊	別冊	1000
幼女連続誘拐殺人事件を起こした若者はなぜ？	1990年1月号	205	550
スポーツ・体育ってなんだっけ？	1990年2月号	206	550
ゴミの授業をつくる	1990年3月号	207	550
漢字がたのしくなる本	1990年4月号	208	550
明治から平成まで変わらなかった教育	1990年5月号	209	550
公開質問状をめぐるの論争検定教科書で英語ができるようになるか	1990年6月号	210	680
SOS！ ゴミで日本は滅びる	1990年7月号	211	550
自分らしさと「子どもの権利条約」	1990年8月号	212	550
「日の丸・君が代」90's あなたはどうする？	1990年9月号	213	728
「教育技術の法則化」をやってみる	1990年10月号	214	550
あわせ漢字と部首を教える	※ 1990年11月号	215	550
生活科、いま実践のチャンス	1990年12月号	216	680
性——ありのままの自分がいい	- 1991年1月号	217	680
授業・ゴルフ場って、なんだ？	1991年2月号	218	680
子どもの眼でみる現代—社会科の授業から	1991年3月号	219	680
追いつめられた子どもたち—学校が危ない	1991年4月号	220	680
ことばを甦らせる“ことば遊び”	- 1991年5月号	221	680
宮沢賢治の教師としての仕事	1991年6月号	222	874
この1年、「日の丸・君が代」'91	1991年7月号	223	680
形声文字をつかめば、漢字がわかる	1991年8月号	224	680
「自然」を学び、暮らしを変える	1991年9月号	225	680
読み—作品が子どもを育てる	1991年10月号	226	680

特集名	月号	通巻	税抜定価
日常のなかの優生思想	1991年11月号	227	680
ゴミと原発	1991年12月号	228	680
日常のなかの子どもたちの異変	1992年1月号	229	680
日本史に異質社会を掘りおこす	1992年2月号	230	680
親の言い分、先生の言い分	1992年3月号	231	680
再生紙とアルミ缶からあばかれる日本	1992年4月号	232	680
漢字はぜんぶ遊びでまなべる	※ 1992年5月号	233	680
性、エイズから従軍慰安婦まで	1992年6月号	234	680
授業・戦争、徴兵拒否、賠償、広告……	1992年7月号	235	680
私たちのなかの優生思想を超える	1992年8月号	236	680
'92変わりゆく「日の丸」「君が代」	1992年9月号	237	874
蝕まれ、漂白される子どもたち	1992年10月号	238	874
漢字の学びの急所	1992年11月号	239	874
日本の学校のゆくえ〈パート1〉自由の森学園	1992年12月号	240	680
日本の学校のゆくえ〈パート2〉改革への希望	1993年1・2月合併号	241	874
若者がしがあわせを感じるとき	1993年3月号	242	777
不安とつきあう	1993年4月号	243	777
AVにつくられる男たちのセクシュアリティ	- 1993年5月号	244	777
現代の親子関係・子殺しと無縁か	- 1993年6月号	245	777
動物に学ぶ——みる・きく・まねる	1993年7月号	246	777
学校まかせでない子育て	- 1993年8月号	247	777
エネルギー・ゴミ問題の解決策を提案する	1993年9月号	248	777
危険な公文式早期教育	1993年10月号	249	777
宮沢賢治をやっつけろ	- 1993年11月号	250	777
文部省版“新しい学力観”で学校は改革できるか	1993年12月号	251	777
あなたが変わる、子育て・授業が変わる	1994年1月号	252	777
だれでもできる国語術	別冊 1	別冊 1	825
やってみませんか、元気がでる授業	別冊 2	別冊 2	825
授業「ピープル・ウィズ・エイズ」	別冊 3	別冊 3	825
食べものを科学する	別冊 4	別冊 4	825
“遊ばされる”から“遊ぶ”へ	別冊 5	別冊 5	825
日常生活で“地球”の課題をイメージする	別冊 6	別冊 6	825
“教え”から“学び”への転換—新しい学力観	1994年2月号	253	777
公文式早期教育・プリントの徹底検討	1994年3月号	254	777
家族を超える結縁ネットワーク	1994年4月号	255	777
親子関係のリストラ—みんなが孫悟空	1994年5月号	256	777
地球を食いあらす\$（ドル）—マネーの授業	1994年6月号	257	777
新しい学びの構図	1994年7月号	258	777
大人になるのが至難の時代	※ 1994年8月号	259	777
学校に噴きだす家族の病理	1994年9月号	260	777
暮らしの水汚染・その循環	1994年10月号	261	777
教師たちの燃えつき現象	1994年11月号	262	777
早期教育という迷信	1994年12月号	263	777
これでよかったのか“戦争と平和”の教育	1995年1月号	264	777
いま、教育の争点はなにか	1995年2月号	265	777
生きること 学ぶこと ケア・学び・いじめ・環境	1995年3月号	266	777
足もとからの学校改革 いま、できること！	1995年4月号	267	777

特集名	月号	通巻	税抜定価
学びのなかで“いじめ”を超える	1995年5月特大号	268	922
おとなの学び・子どもの学び	1995年6月号	269	777
書くことと繋がることフレネ教育・生活綴り方・コンピューター	1995年7月号	270	777
教師たちの癒し自分を生きぬく	1995年8月号	271	777
学校に出没するヘンなおじさん・おばさんたち	1995年9月号	272	777
オウムの身体教育の世紀末を超えて	1995年10月号	273	777
読むことの快樂	1995年11月号	274	777
検討・教育実践の50年	1995年12月号	275	777
21世紀の学校ヴィジョン	1996年1月号	276	777
絶対性なき時代の科学教育	1996年2月号	277	777
新教師論「女流儀のやり方・生き方」	1996年3月号	278	777
不登校、これからどうなる？	1996年4月号	279	777
死と戯れる子どもたち	1996年5月号	280	777
“教えられた戦争”を根底から問う	1996年6月号	281	874
“教育”を紡ぐ小さな“物語”	1996年7月号	282	874
学校間通信 閉じた学校をひらく	1996年8月号	283	874
蹴っとばせ、中教審！ これから学校はどうなる？	1996年9月号	284	874
教師たちを救え！ その処方箋	1996年10月号	285	874
自分いじめの子どもたち	1996年11月号	286	874
自分の足でうごく国際交流学校が変わる	1996年12月号	287	874
“学び”のための教育宣言参加し、交わり、つながること	1997年1月号	288	874
学力幻想をぶっとばせ！	1997年2月号	289	874
学校がスクラップされる！	1997年3月号	290	874
商品化される性、どろんと虚ろな身体	1997年4月号	291	874
子どもがつくる学びのスタイルさらば、正解主義！	1997年5月号	292	933
入試改革・学力テスト・内申書——評価とは？	1997年6月号	293	933
「自由主義史観」を超えて	1997年7月号	294	1143
ディスコミュニケーションを超えて繋がる	1997年8月号	295	1143
表現が生まれるとき	1997年9月号	296	1143
「透明な存在であるボク」とはなにか？	1997年10月号	297	1143
なぜ小学高学年が“荒れる”のか	1997年11月号	298	1143
モノ・こと・人から学ぶ 教師になるために	1997年12月号	299	1143
学校=教育再生へのアプローチ	1998年1月号	300	1143
子どもと大人の断絶をどう超える？	1998年2月号	301	1143
学びとライフスタイルの転換へ	1998年3月号	302	1143
ひとネットワーク 第1号	1998年4月号		600
ひとネットワーク 第2号	1998年6月号		600
ひとネットワーク 第3号	1998年8月号		600
ひとネットワーク 第4号	1998年11月号		600
ひとネットワーク 第5号	1999年1月号		600
ひとネットワーク 第6号	※ 1998年12月号		600
リニューアルひと Vol. 1 読む	1999年9・10月号	303	933
リニューアルひと Vol. 2 なぞる	1999年11・12月号	304	933
リニューアルひと Vol. 3 傷つく	2000年1・2月号	305	933
リニューアルひと Vol. 4 うつつ	2000年3・4月号	306	933
リニューアルひと Vol. 5 黙る	2000年5・6月号	307	933
リニューアルひと Vol. 6 侵す	2000年7・8月	308	933

Excelデータで
差し上げられます。

申込先
太郎次郎社エディタス
Tel.03-3815-0605
e-mail:
tarojiro@tarojiro.co.jp